

島根県地方港湾審議会 (浜田港湾部会)

平成29年9月8日

〔議題〕浜田港港湾計画(改訂)

1. 港湾計画の方針	1
2. 港湾の能力	5
3. 港湾施設の規模及び配置	10
4. 港湾の環境の整備及び保全	20
5. 土地造成及び土地利用計画	22
6. その他重要事項	24
7. 環境影響評価	29
8. 浜田港トピックス	34

1. 港湾計画の方針

浜田港への要請



港湾計画基本方針

■今回計画(案) (目標年次:平成40年代前半)

「地域を支え、発展著しいアジアとともに成長する浜田港」

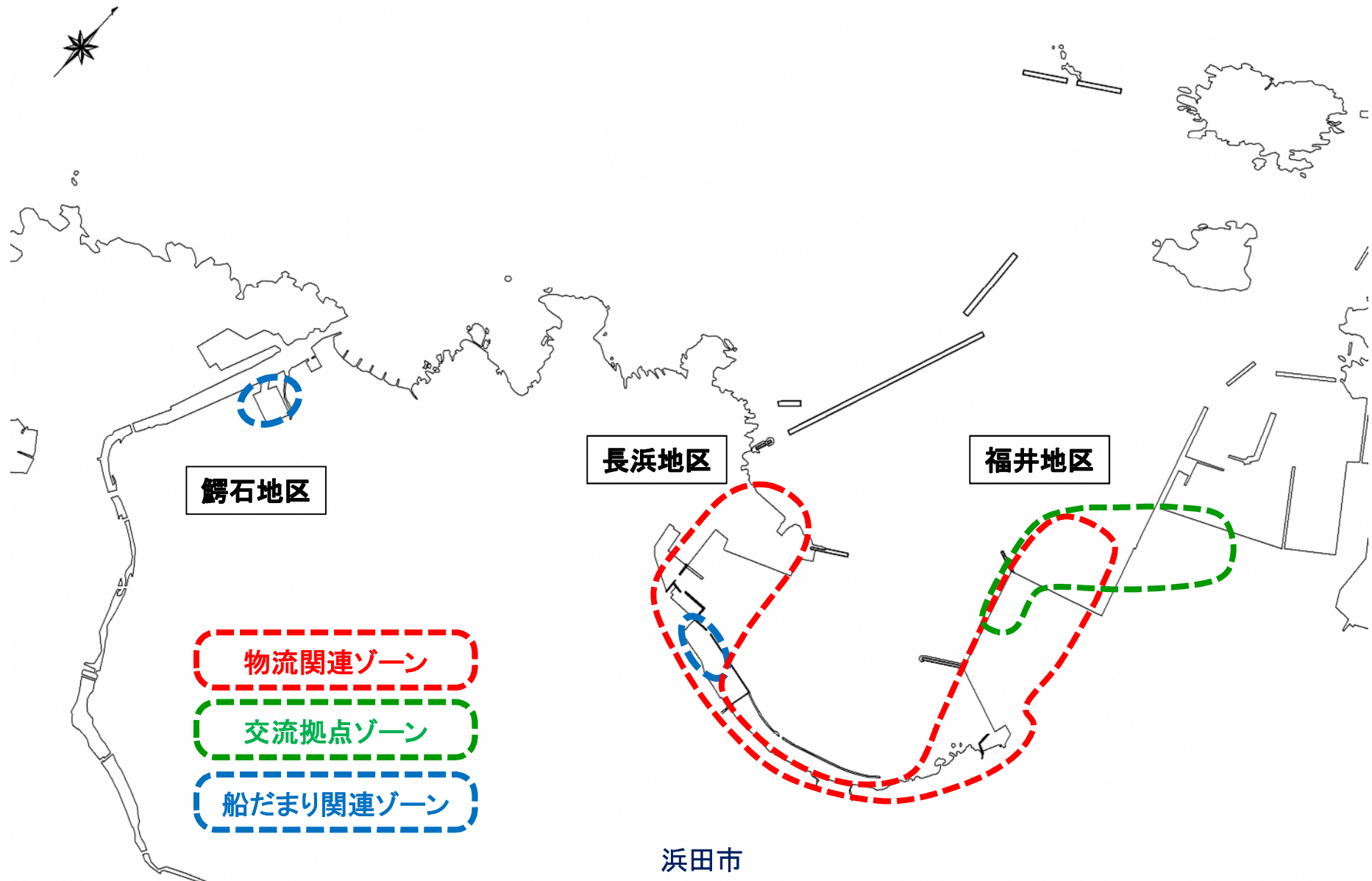
物流：島根県西部を中心とした背後圏域の産業を支え、働く場を創出する。

交流：自然や伝統文化に彩られた県西部に人を呼び込み、賑わいを創出する。

防災：最悪の事態を避け、企業活動の継続や安心・安全な暮らしを維持する。

1) 外・内貿物流機能の強化と港湾機能の再編	①船舶の大型化に対応した係留機能の強化、荷捌き・保管機能の充実など物流機能の強化を図る。また、国際・国内定期航路の就航に向けた取り組みを推進する。
	②バイオマス発電関連貨物などの新規取扱需要のある貨物の取扱拠点の形成を図る。
	③埠頭から高規格幹線道路(山陰自動車道)へのアクセス機能の向上を図る。
	④冬季波浪時等における港内静穏度の確保を図る。
2) 交流拠点機能の強化	①背後地域の観光資源を活かした地域振興を促進するため、外航クルーズ船等の大型客船の受入環境の整備を図る。
	②市民や観光客が港や海と触れ合う憩いの場の創出を図る。
3) 港内環境の改善	①港湾の景観や環境悪化に繋がる放置艇対策として小型船の適正な管理を図る。
4) 防災機能の強化	①大規模地震等の災害に備え、市民の安心・安全の確保、企業活動の継続に向けた、港湾BCPの策定等の取り組みを推進する。

空間利用計画(機能配置ゾーニング)



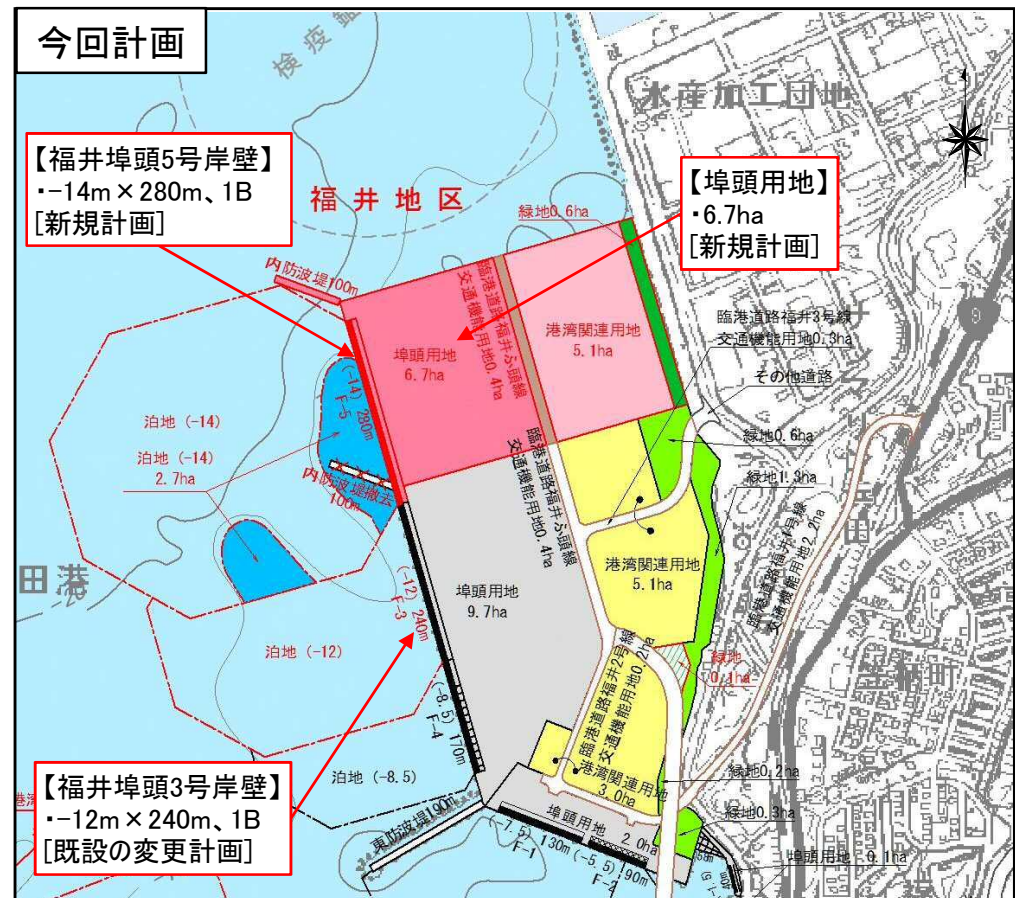
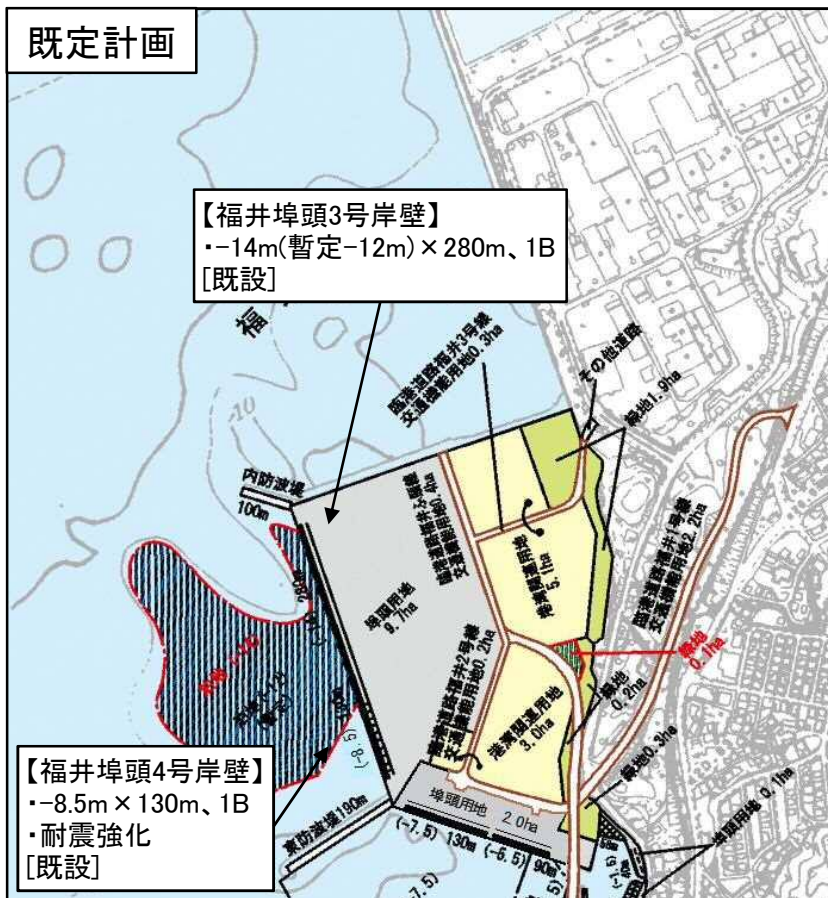
2. 港湾の能力

3. 港湾施設の規模及び配置

公共埠頭計画(福井地区)

- 【福井埠頭5号岸壁(水深14m、延長280m、1バース)】 **新規計画**
- 【福井埠頭3号岸壁(水深12m、延長240m、1バース)】 **既設の変更計画**
- 【埠頭用地(面積6.7ha)】 **新規計画**

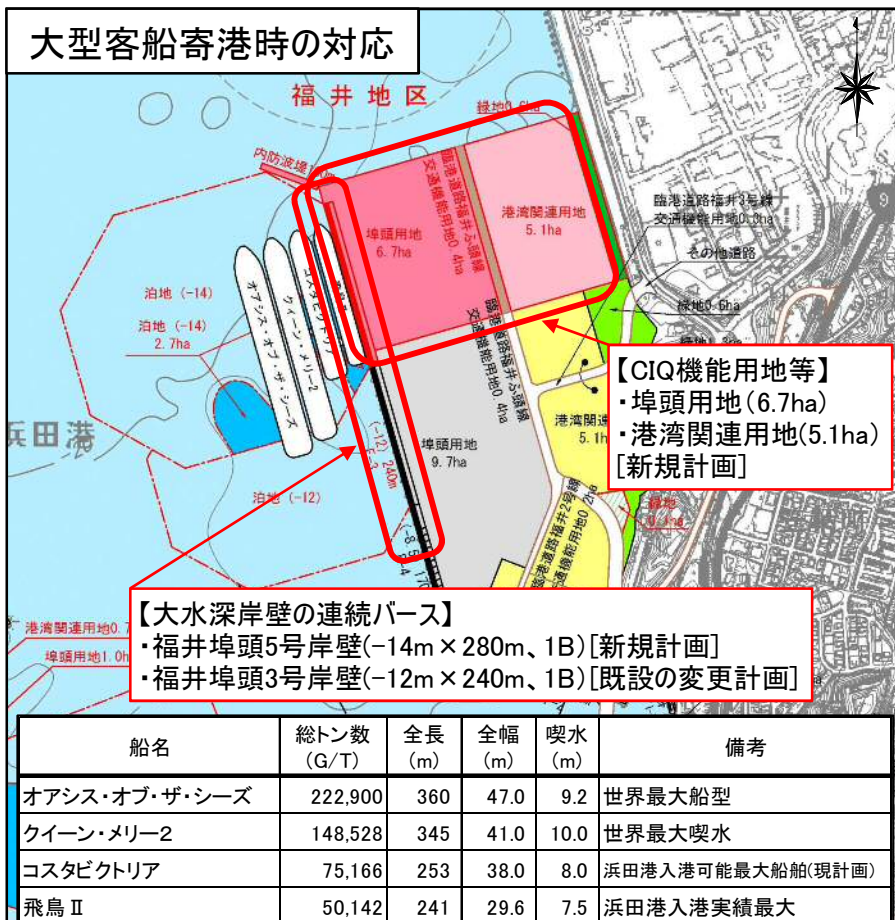
○ 鉱産品、原木、化学工業品及びコンテナ等の外貨貨物を取り扱うため、公共埠頭を計画する。



公共埠頭計画(福井地区)

- 【福井埠頭5号岸壁(水深14m、延長280m、1バース)】 **新規計画**
- 【福井埠頭3号岸壁(水深12m、延長240m、1バース)】 **既設の変更計画**
- 【埠頭用地(面積6.7ha)、港湾関連用地(面積5.1ha)】 **新規計画**

○大型客船寄港時には新規公共岸壁(-14m×280m)と既設公共岸壁(-12m×240m)を連続バースとして使用し係留延長を確保するとともに、背後の埠頭用地をCIQ機能用地等として活用することで対応
 ○「みなとオアシス」や「拠点化形成研究会」による受け入れ体制の充実を図る



公共埠頭計画(長浜地区)

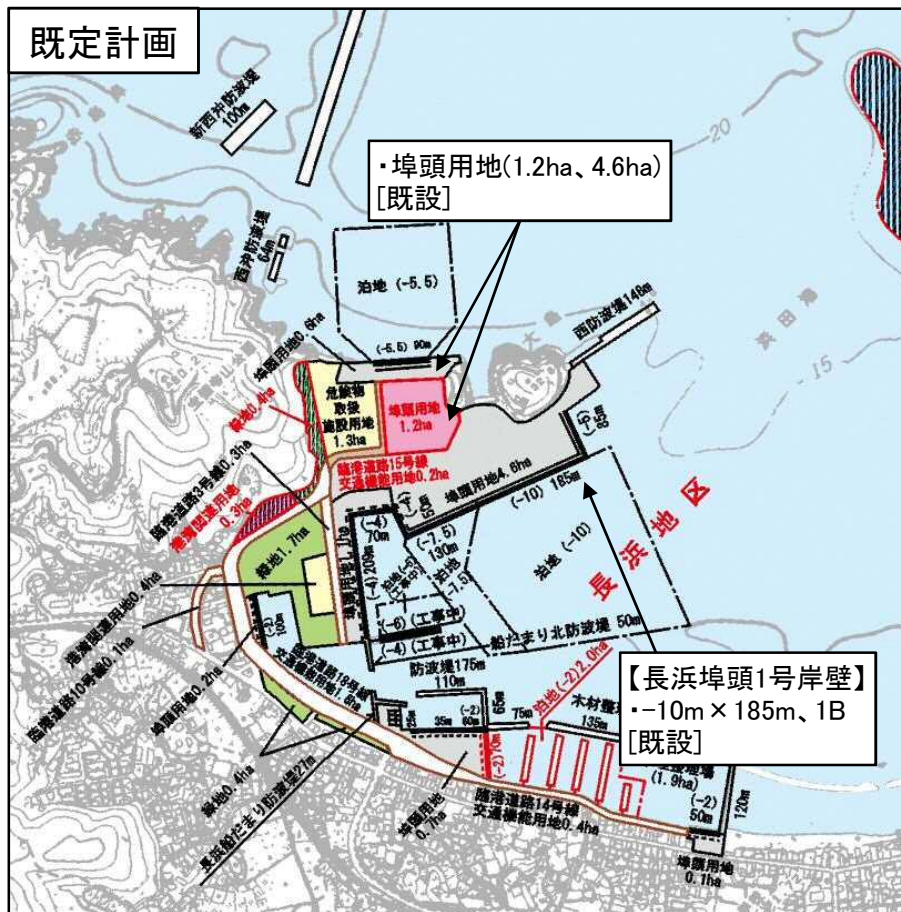
【長浜埠頭1号岸壁(水深13m、延長260m、1バース)】

【埠頭用地(面積1.0ha)】

既設の変更計画

新規計画

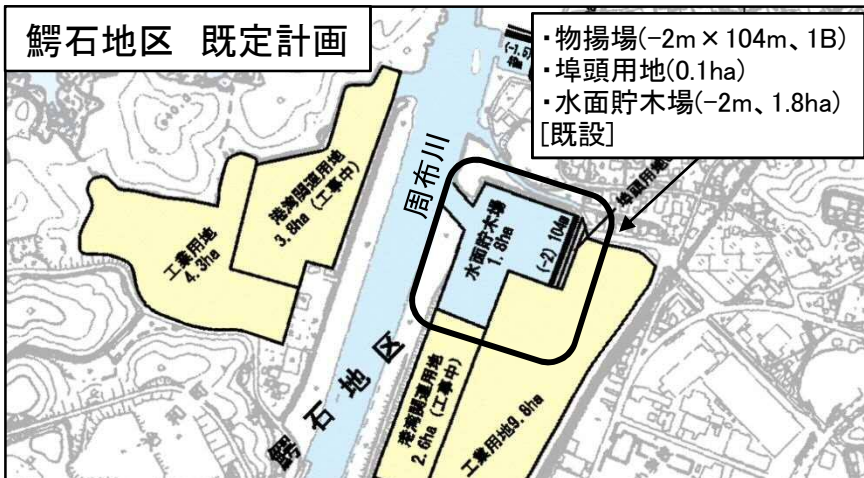
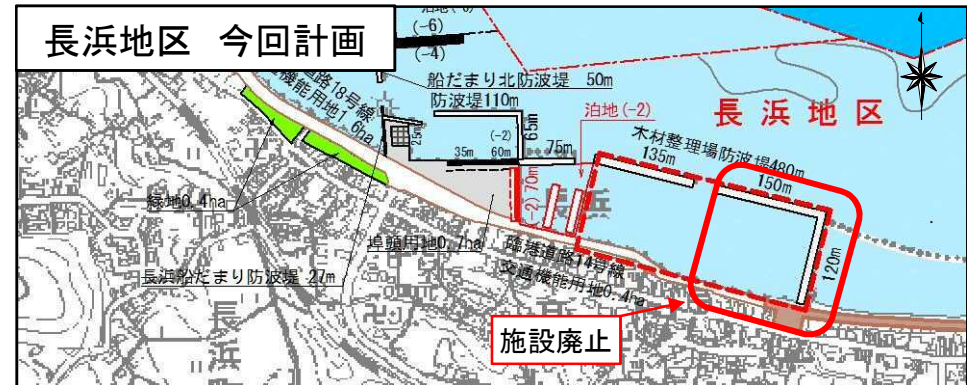
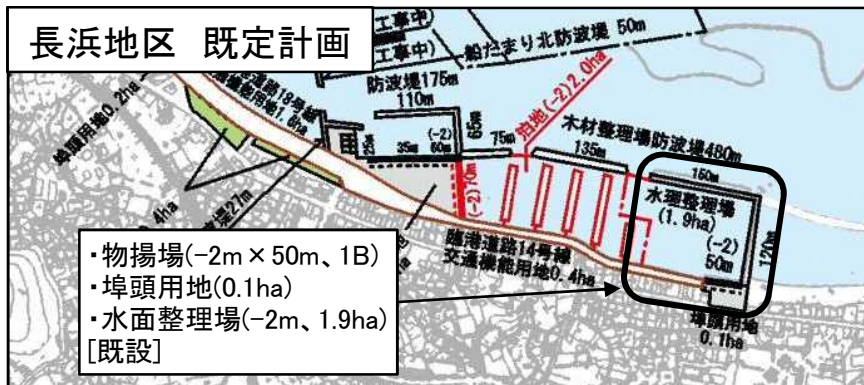
○木材チップ、薪炭、化学工業品等の外貨貨物を取り扱うため、公共埠頭を計画する。



木材取扱施設設計画(長浜地区・鰐石地区)

- 【長浜地区:物揚場(水深2m、延長50m、1バース)】
- 【長浜地区:埠頭用地(面積0.1ha)】
- 【長浜地区:水面整理場(水深2m、面積1.9ha)】
- 【鰐石地区:物揚場(水深2m、延長104m、1バース)】
- 【鰐石地区:埠頭用地(面積0.1ha)】
- 【鰐石地区:水面貯木場(水深2m、面積1.8ha)】

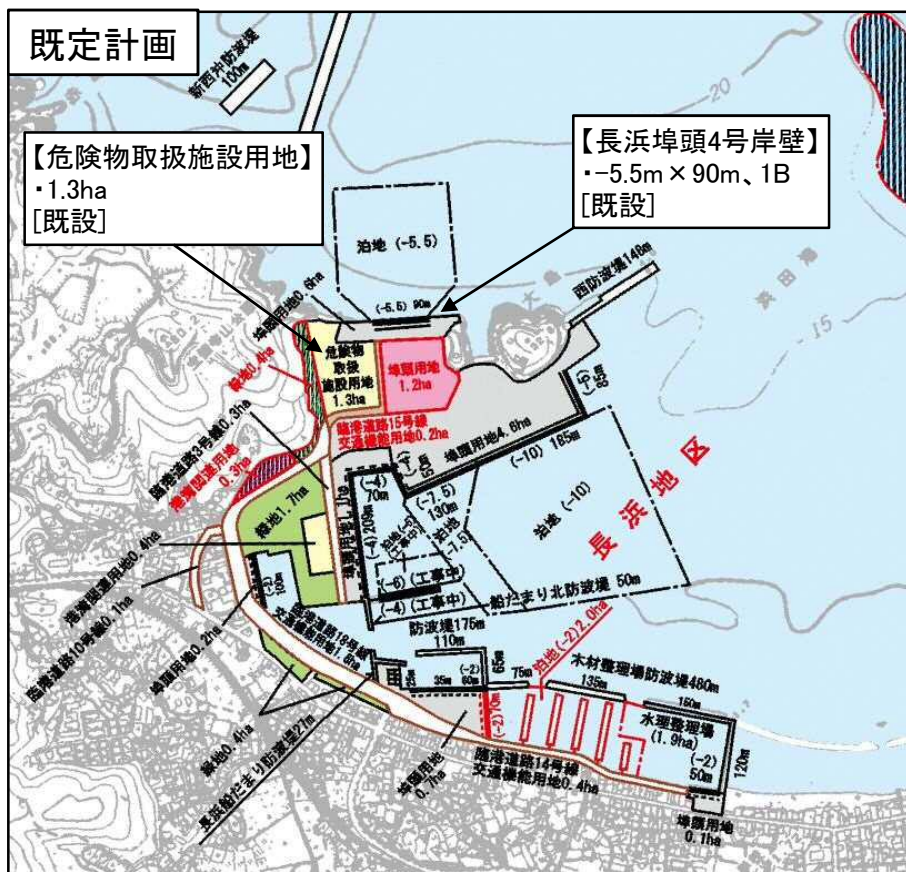
- 施設廃止
- 施設廃止
- 施設廃止
- 施設廃止
- 施設廃止
- 施設廃止



危険物取扱施設設計画(長浜地区)

【長浜埠頭4号岸壁(水深5.5m、延長90m、1バース)】 **施設廃止**
 【危険物取扱施設用地(面積1.3ha)】 **施設廃止**

○港湾関連用地として利用転換するため、危険物取扱施設用地を廃止する。



水域施設計画(福井地区・長浜地区)

【福井地区:第一航路(水深15m、幅員330m)】

【福井地区:泊地(水深14m、面積2.7ha)】

【福井地区:泊地(水深12m)】

【長浜地区:泊地(水深13m、面積11.3ha)】

【長浜地区:泊地(水深7.5m)】

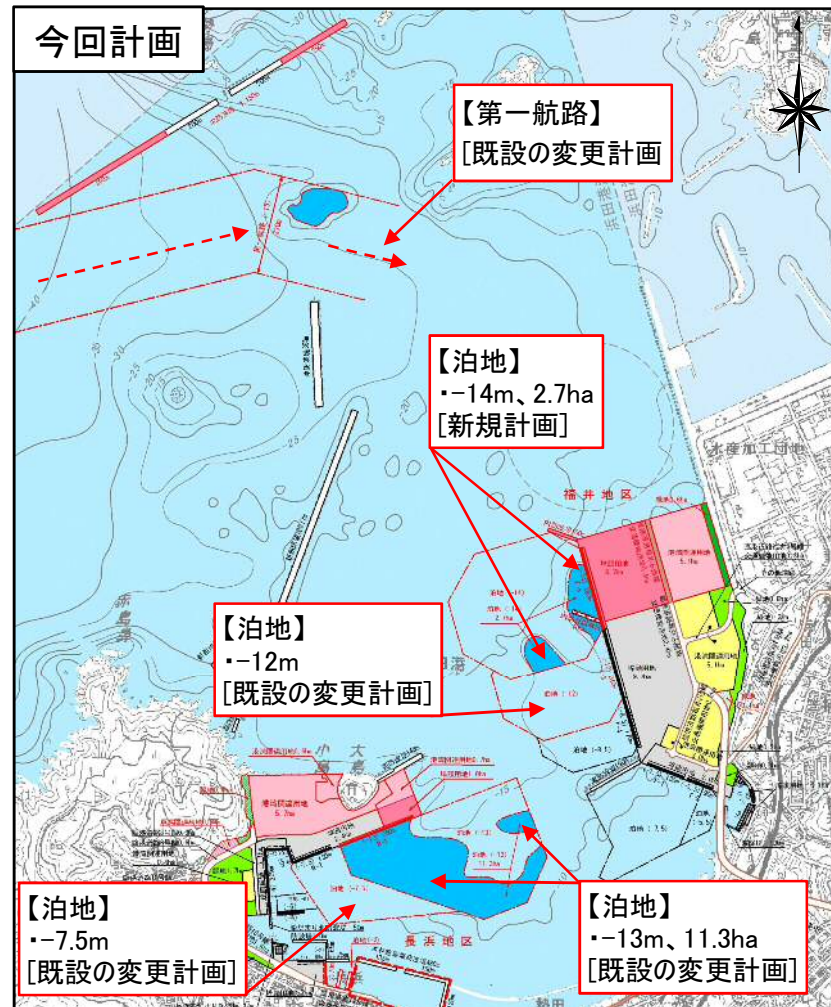
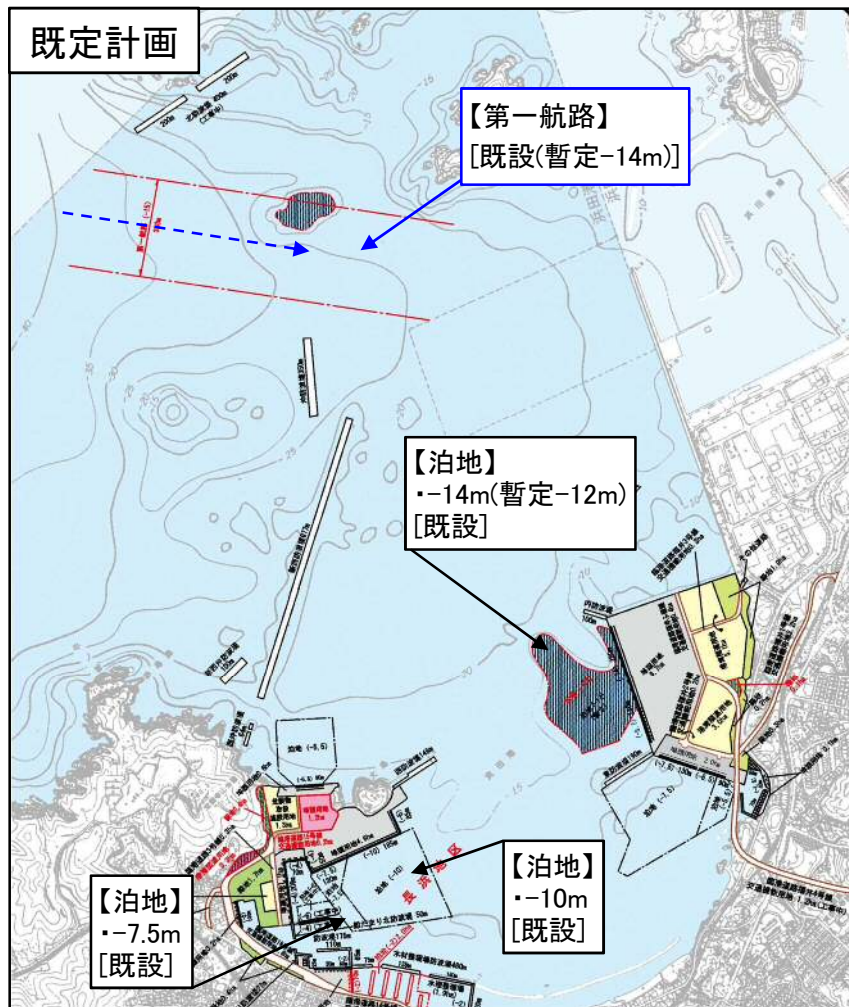
既設の変更計画

新規計画

既設の変更計画

既設の変更計画

既設の変更計画



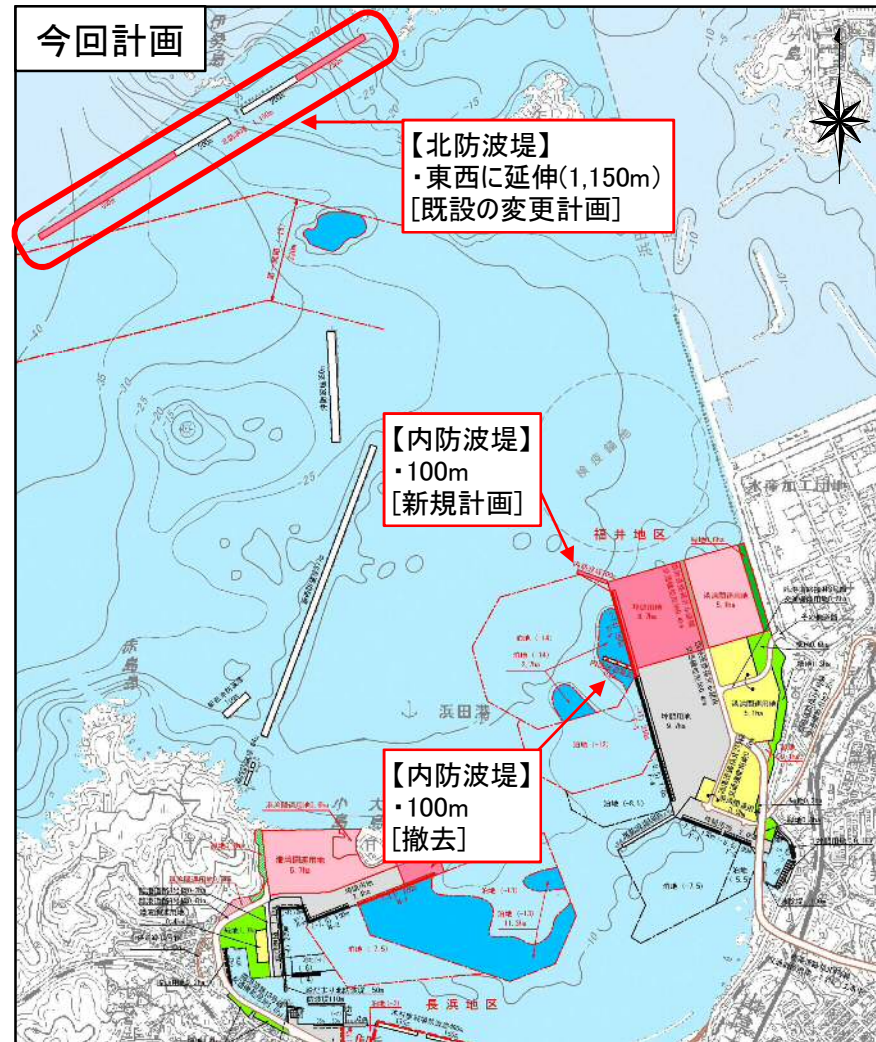
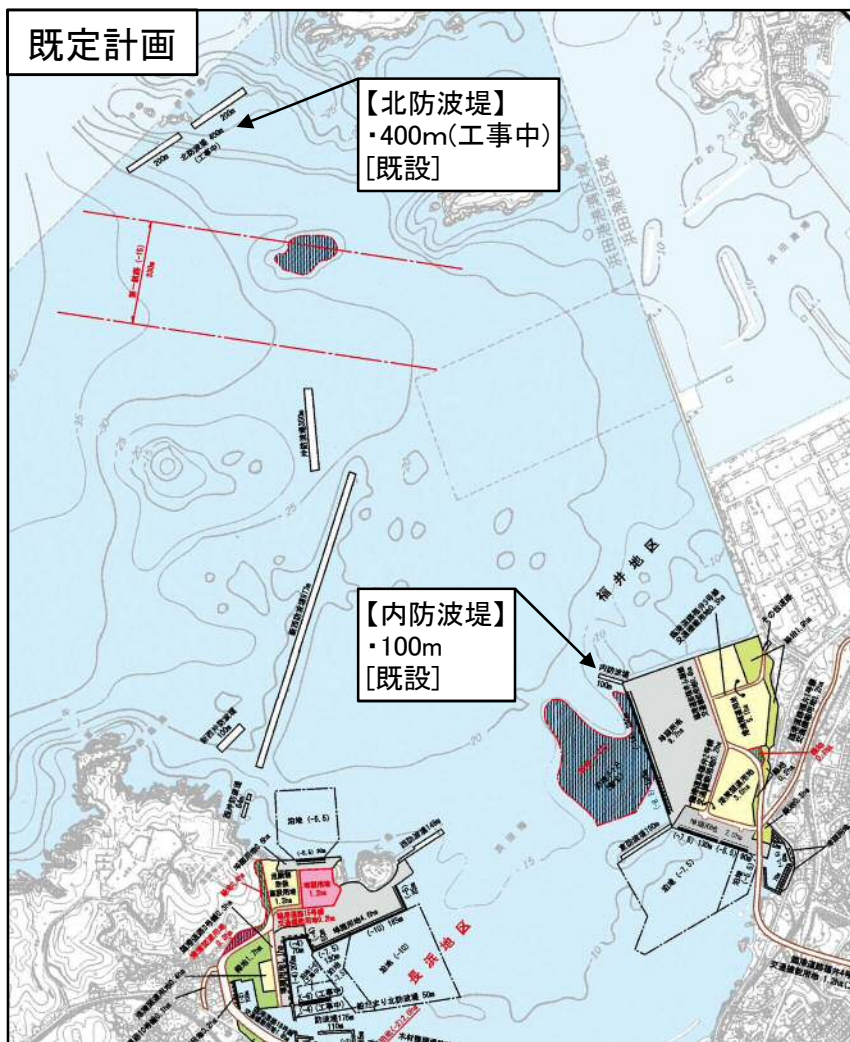
外郭施設計画(福井地区)

【北防波堤(延長1,150m)】 既設の変更計画

【内防波堤(延長100m)】 新規計画

【内防波堤(延長100m)】 撤去

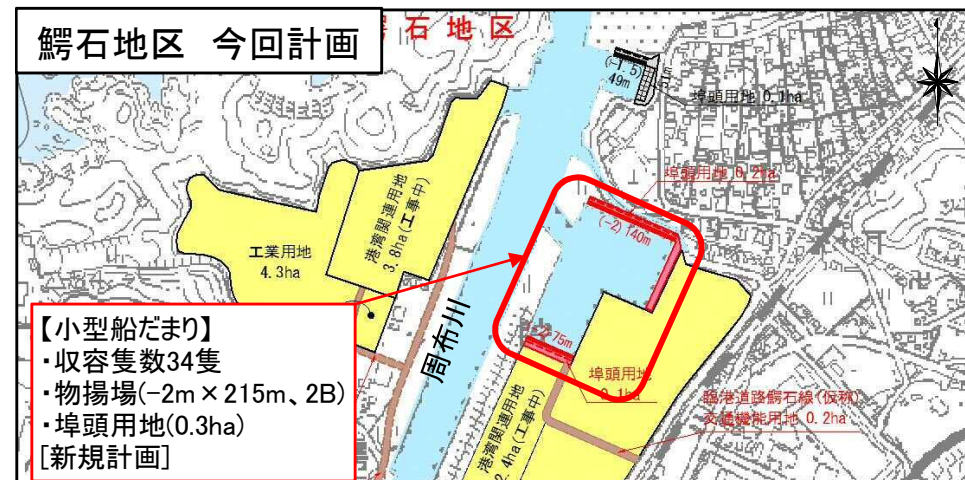
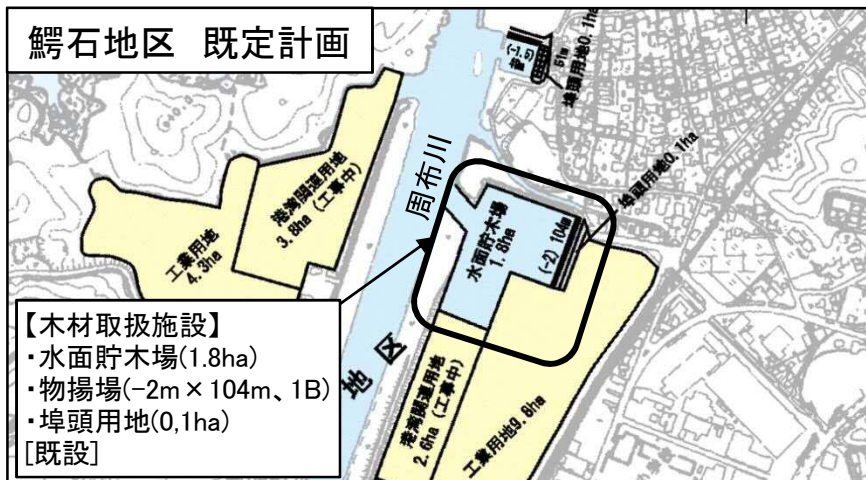
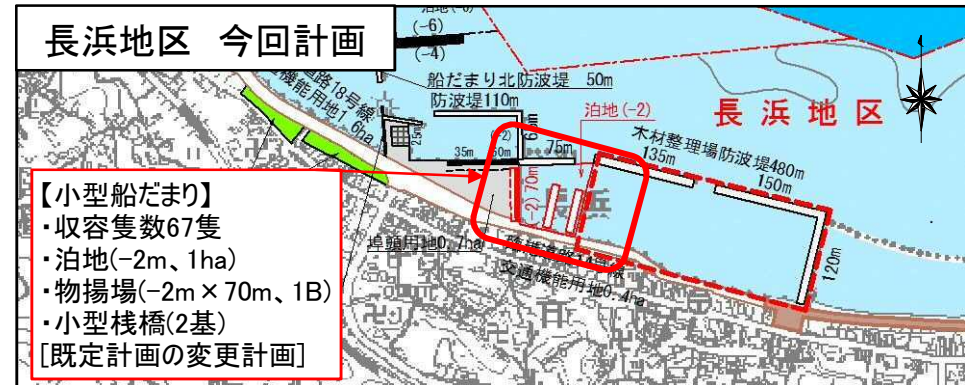
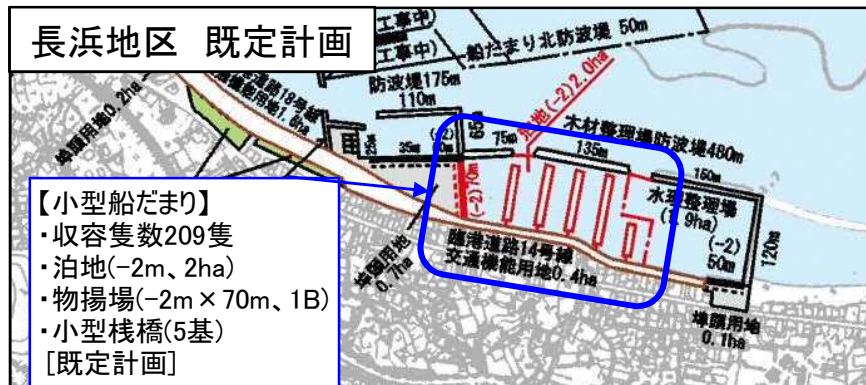
○港内の静穏及び航行船舶の安全を図るため、外郭施設を計画する。



小型船だまり計画(長浜地区・鰐石地区)

- 【長浜南小型船だまり: 収容隻数67隻、泊地(水深2m、面積1ha)、
物揚場(水深2m、延長70m、1バース)、小型棧橋(2基)】 既定計画の変更計画
- 【鰐石小型船だまり: 収容隻数34隻、物揚場(水深2m、延長215m、2バース)、
埠頭用地(面積0.3ha)】 新規計画

○漁船、プレジャーボート等の適正な収容を図るため、小型船だまりを計画する。

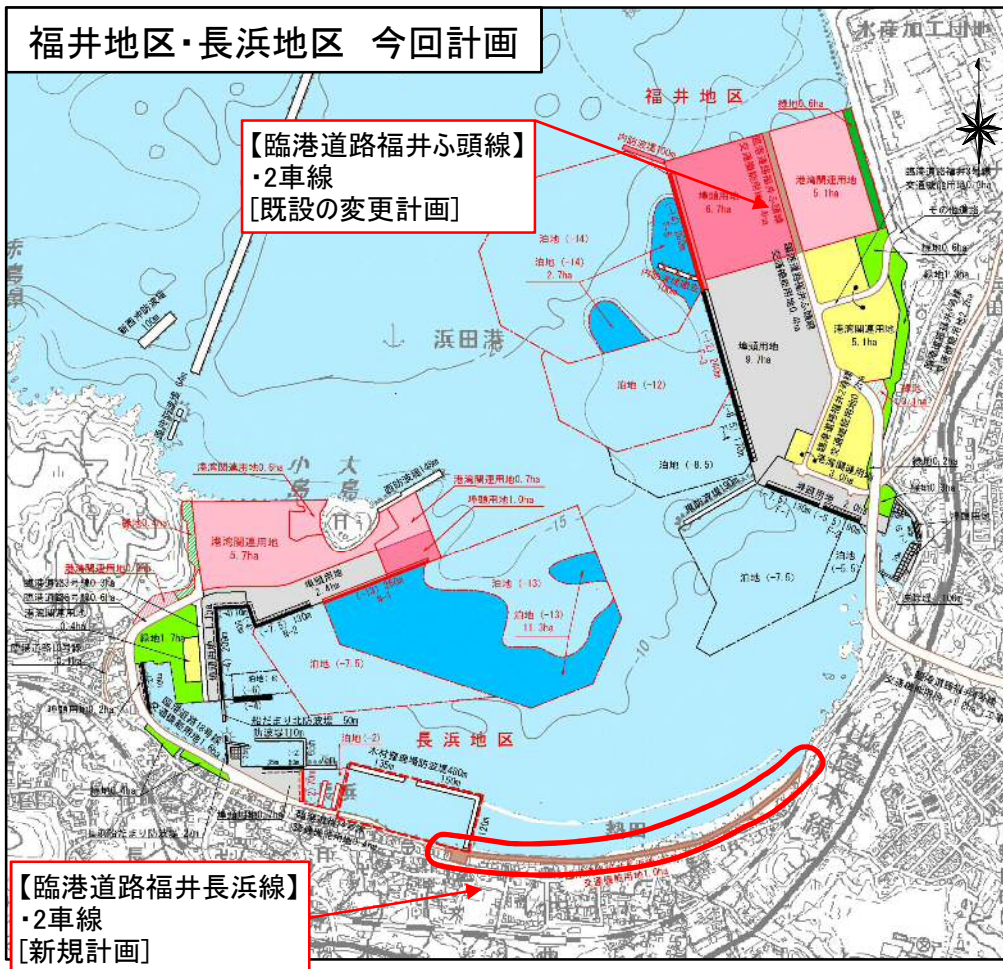


臨港交通施設計画

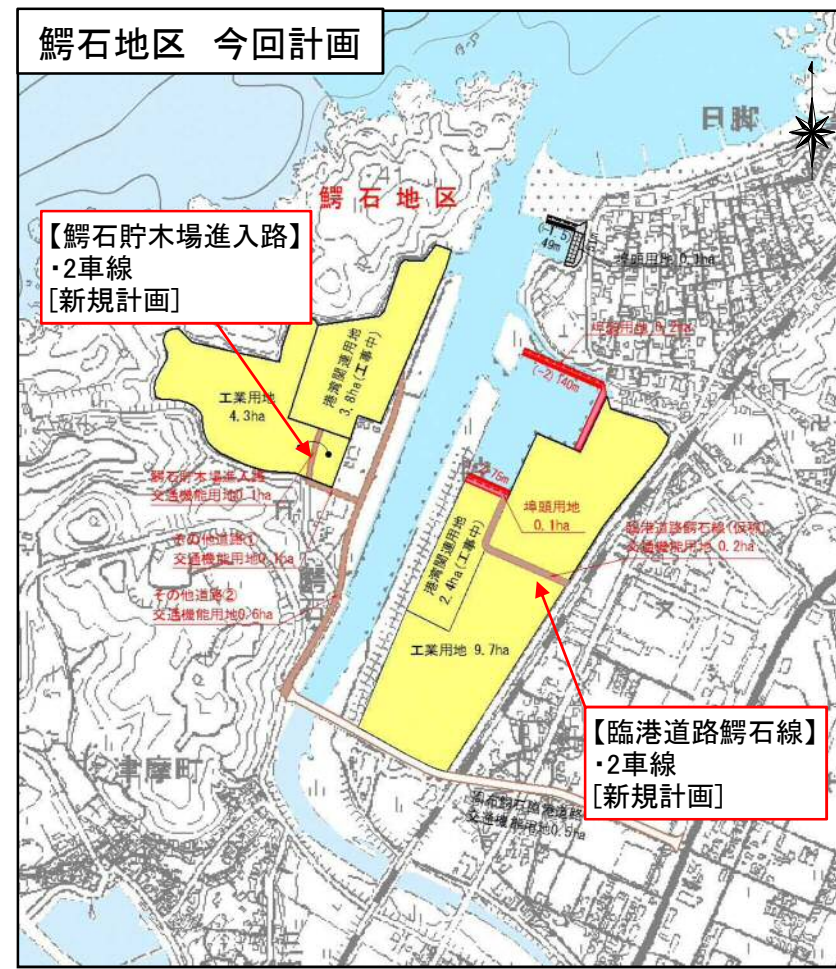
- 【臨港道路福井ふ頭線 起点:臨港道路福井2号線 終点:福井地区 2車線】 既設の変更計画
- 【臨港道路福井長浜線 起点:臨港道路14号線 終点:県道浜田商港線 2車線】 新規計画
- 【臨港道路鰐石線 起点:市道周布18号線 終点:鰐石地区 2車線】 新規計画
- 【鰐石貯木場進入路 起点:市道周布28号線 終点:鰐石貯木場野積場 2車線】 新規計画

○港湾における交通の円滑化を図るとともに、港湾と背後地域を結ぶため、臨港交通施設を計画する。

福井地区・長浜地区 今回計画



鰐石地区 今回計画



4. 港湾の環境の整備及び保全

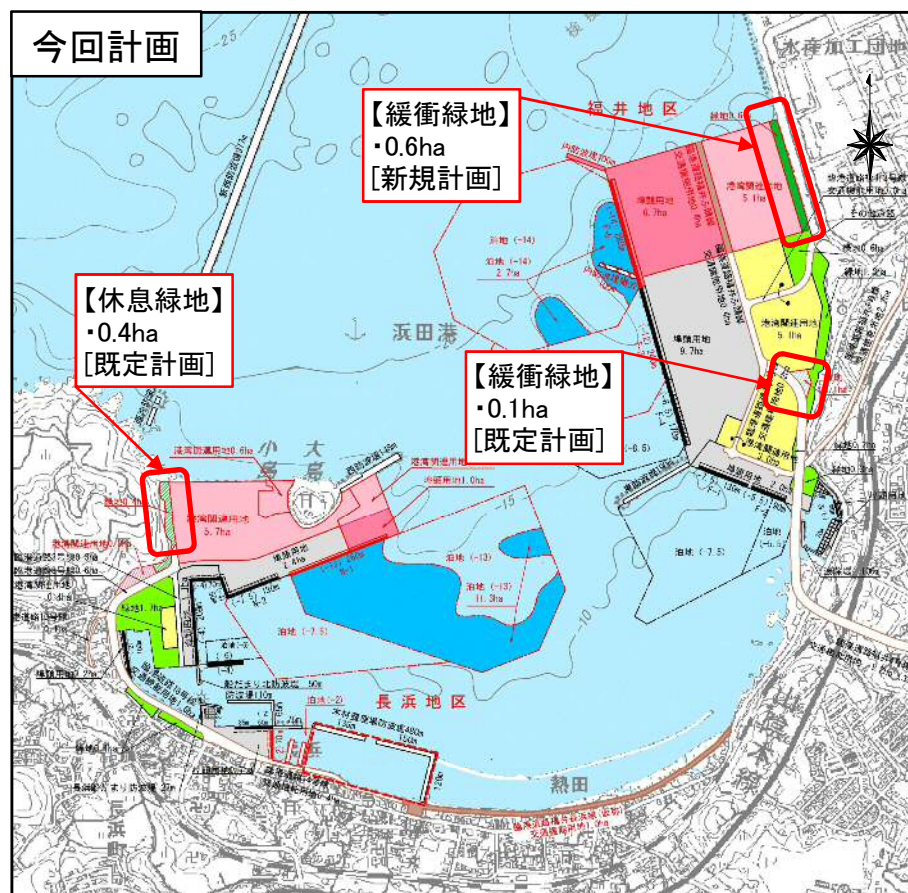
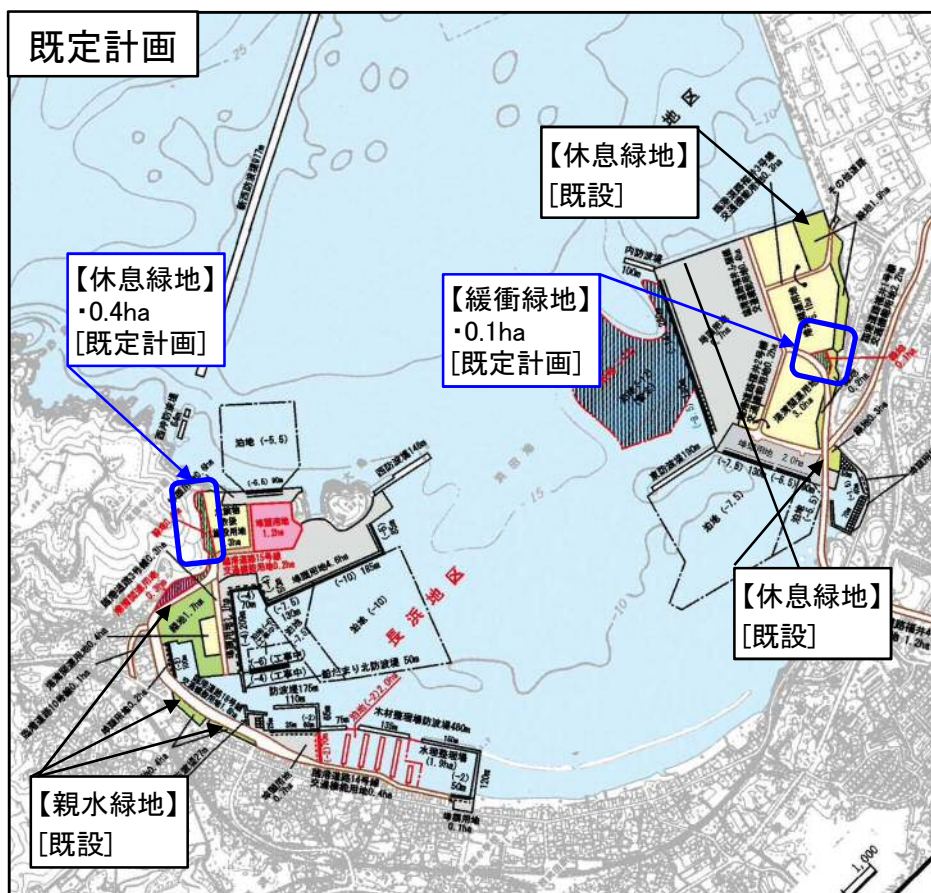
港湾公害防止施設計画、港湾環境整備施設計画

【福井地区 緑地(緩衝緑地、面積0.6ha)】 新規計画

【福井地区 緑地(緩衝緑地、面積0.1ha)】 既定計画

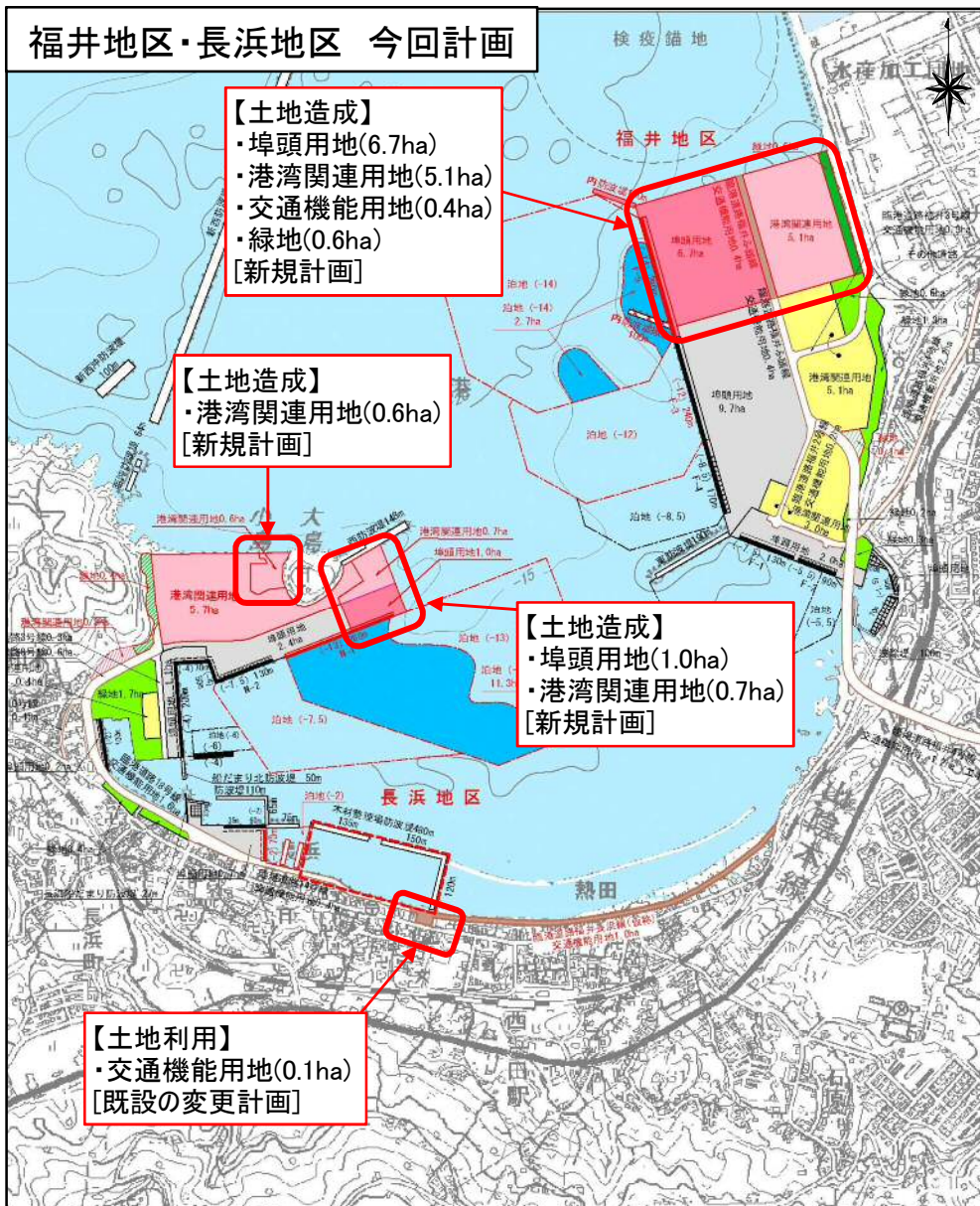
【長浜地区 緑地(休息緑地、面積0.4ha)】 既定計画

○本港及びその周辺における公害の防止を図るため、港湾公害防止施設について、計画する。



5. 土地造成及び土地利用計画

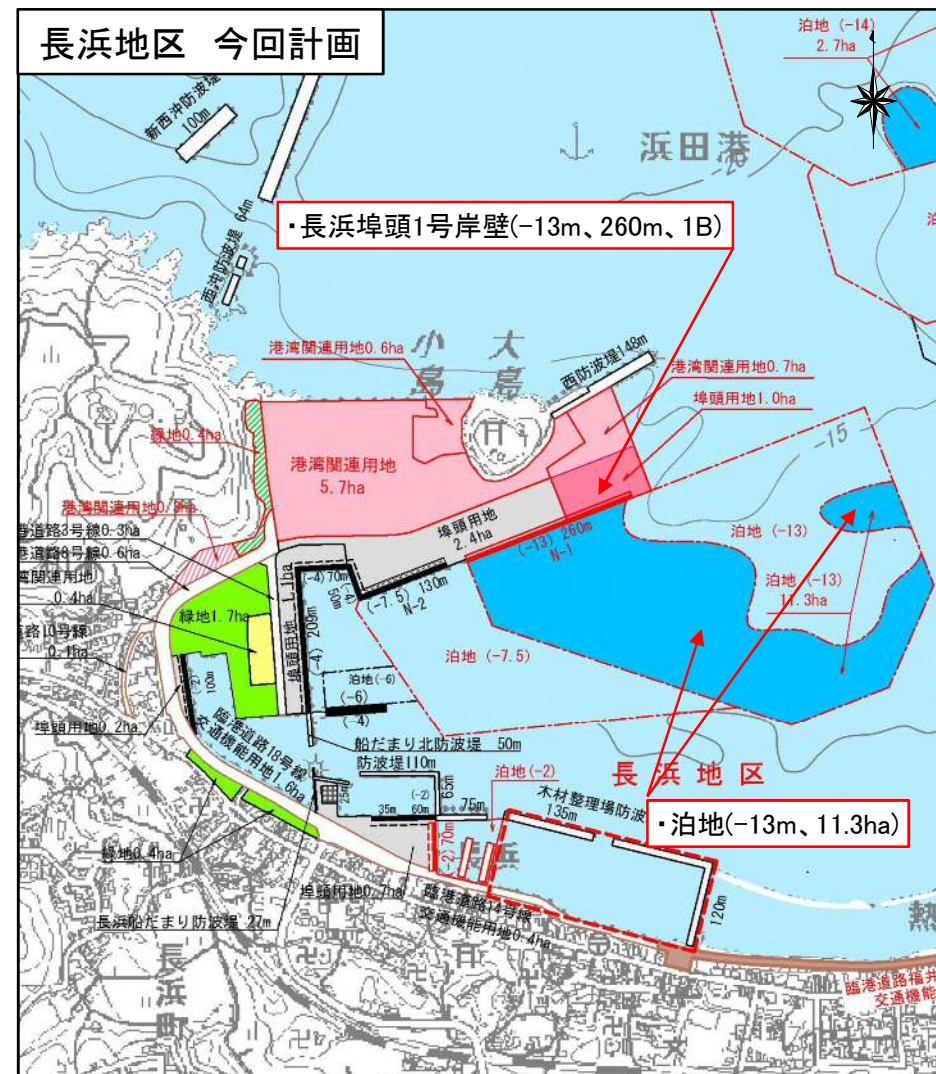
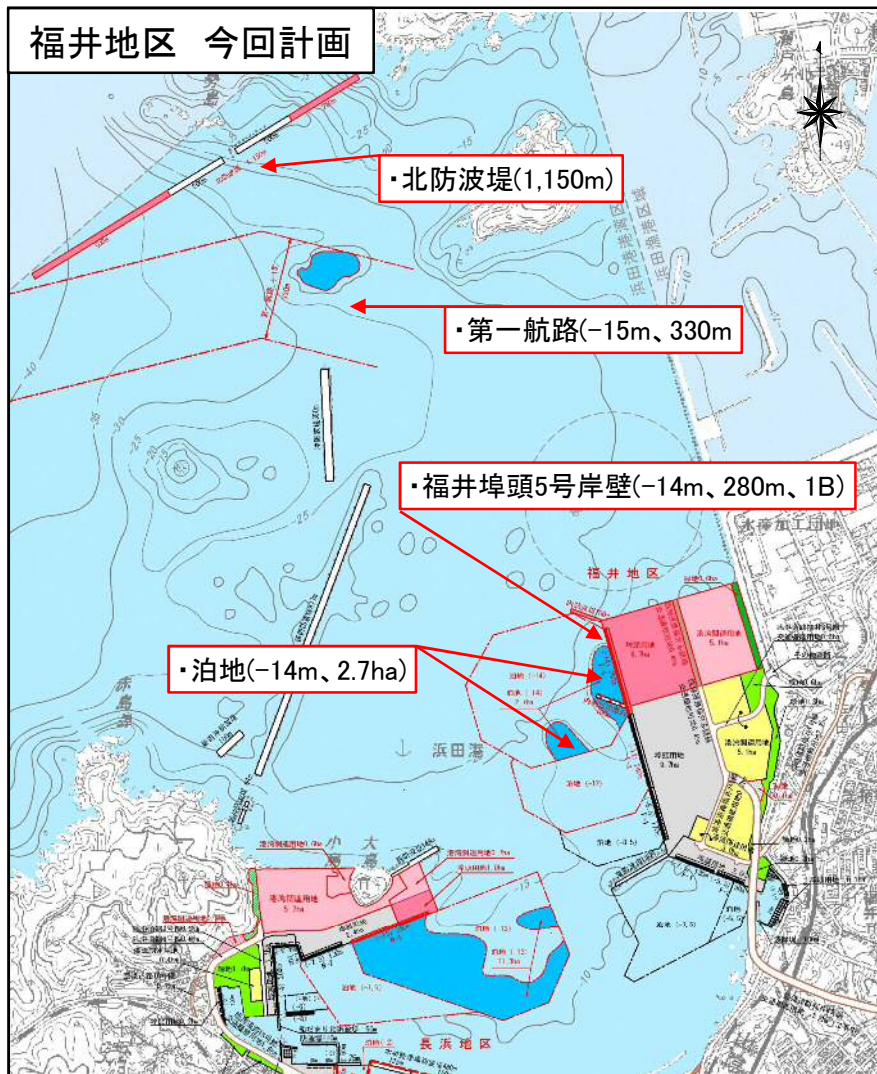
土地造成及び土地利用計画



6. その他重要事項

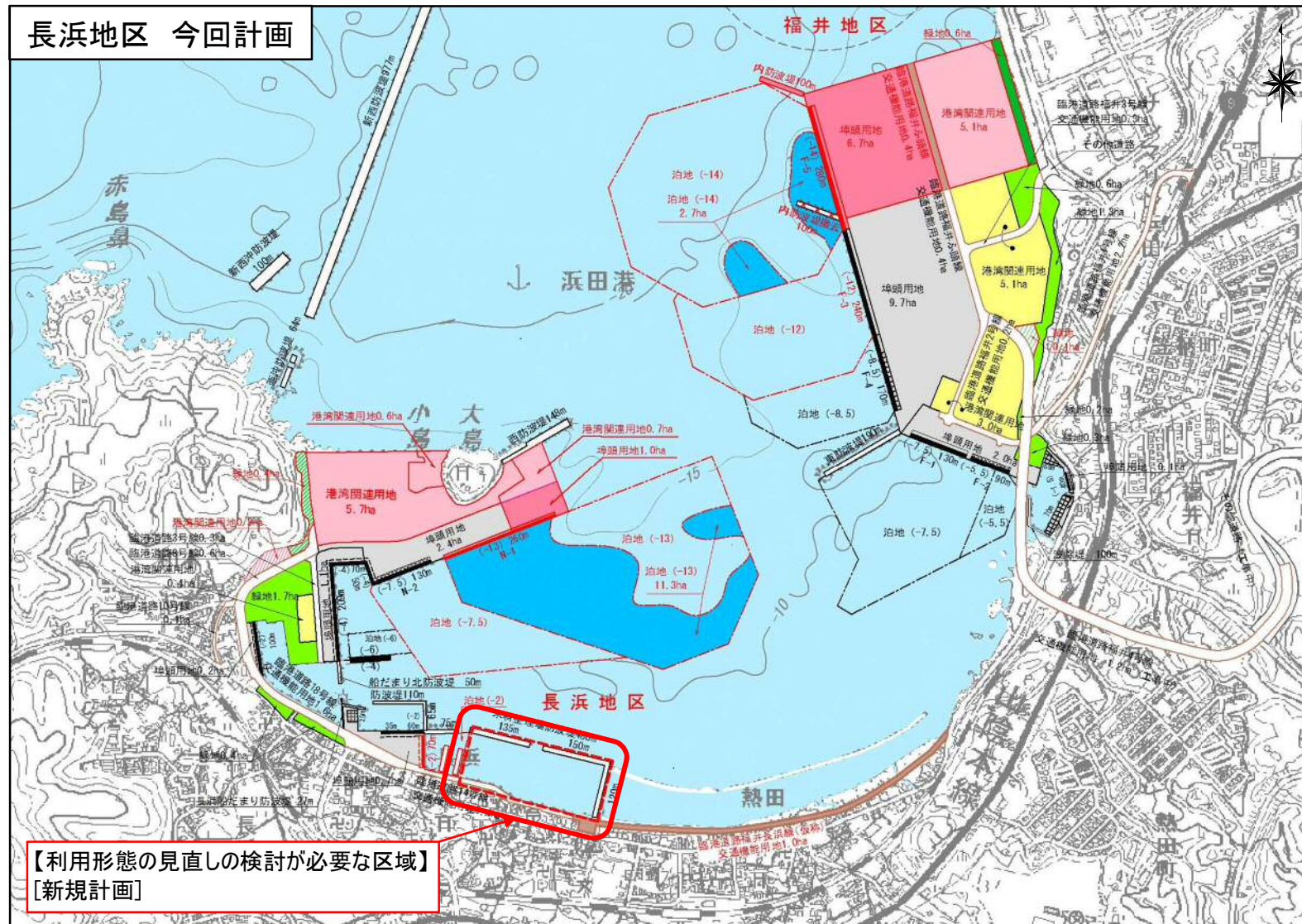
国際・国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設

○今回計画する施設及び既に計画している施設のうち、浜田港が国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設を港湾計画に位置付ける



港湾の再開発

○既存施設の有効な利用を図るための港湾の再開発として、「利用形態の見直しの検討が必要な区域」を設定する



港湾施設の利用

物資補給等のための施設

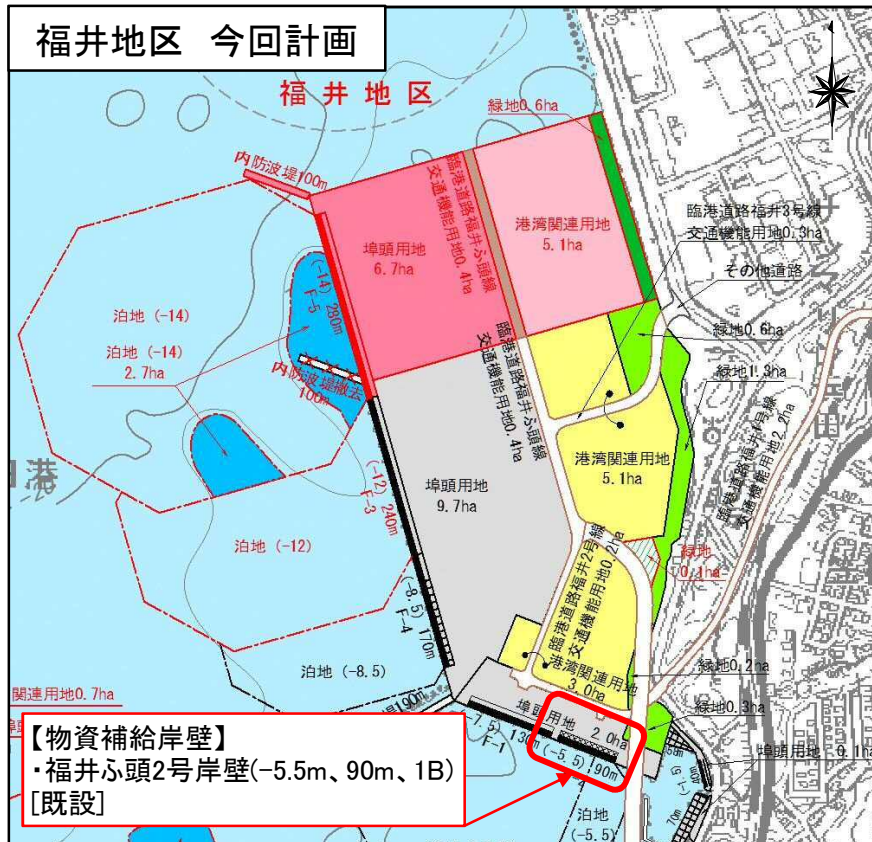
【福井地区 福井埠頭2号岸壁(水深5.5m、1バース、延長90m)】 既設

【長浜地区 長浜埠頭2号岸壁(水深7.5m、1バース、延長130m)】 既設

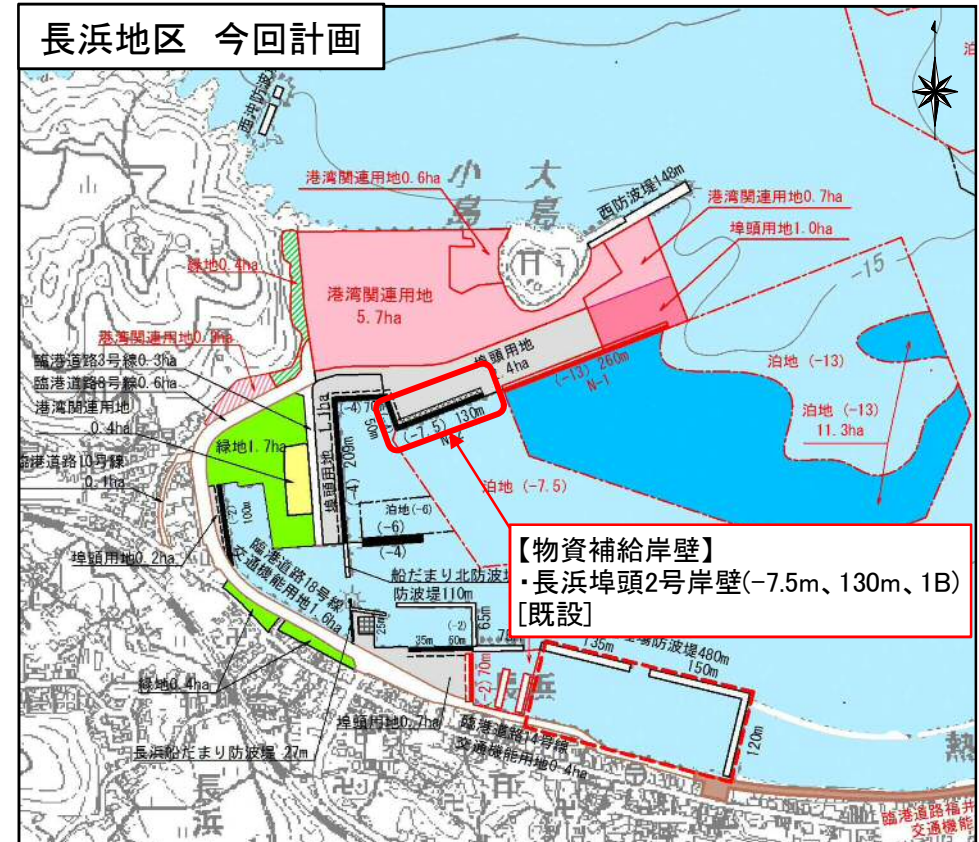
○浜田港には、貨物船、作業船、官公庁船等多くの船舶が係留しており、燃料や飲料水などの補給や避難・休憩場所を確保することが必要

○係留船舶の係留実績や船型を考慮して、福井地区及び長浜地区の既存施設を物資補給等のための施設(物資補給岸壁)に利用転換する

福井地区 今回計画



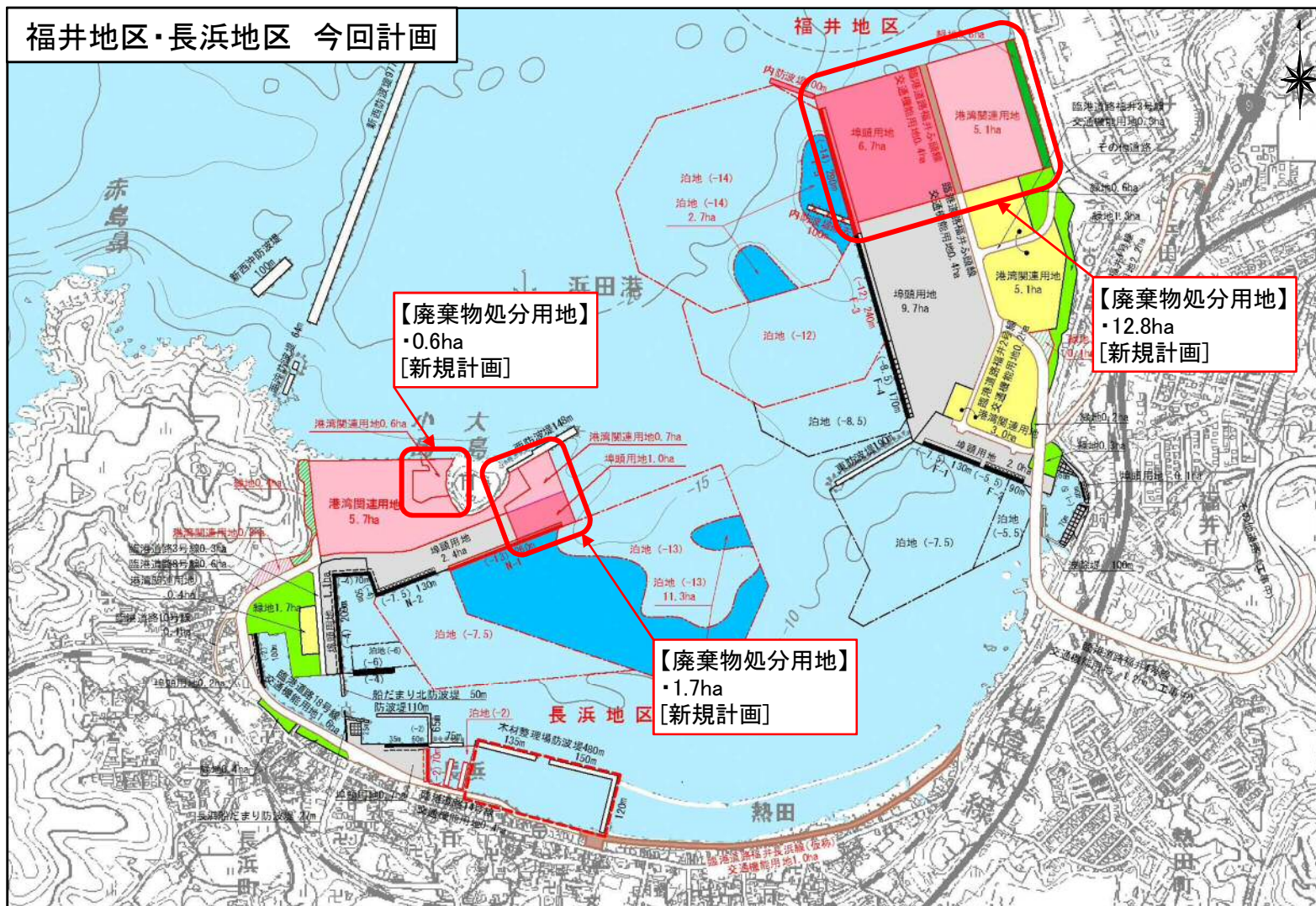
長浜地区 今回計画



その他港湾の開発、利用及び保全に関する事項

- 【福井地区：廃棄物処分用地(面積12.8ha)】
- 【長浜地区：廃棄物処分用地(面積 0.6ha)】
- 【長浜地区：廃棄物処分用地(面積 1.7ha)】

- 新規計画
- 新規計画
- 新規計画



7. 環境影響評估

環境影響評価の概要

- 環境影響評価は、既定計画で定められている港湾施設等による環境影響と今回計画で定められる港湾施設等による環境影響とを予測年度において比較した。
- 予測項目は、下表のとおり、11項目を選定した。

区分		予測項目	予測方法	評価方法
大気環境	大気質	窒素酸化物 (NO _x)、 硫黄酸化物 (SO _x)、 浮遊粒子状物質 (SPM)	自動車、船舶等から発生する大気汚染物質の排出量の変化に基づく定性的予測評価	周辺環境へ著しい影響を及ぼさないこと
	騒音	道路交通騒音	道路交通騒音予測モデルによる定量的予測評価	環境基準、要請限度との対比
	振動	道路交通振動	道路交通振動予測式による定量的予測評価	要請限度との対比
水環境	潮流	流況（流向、流速）	流況モデルによる定量的予測評価	周辺環境へ著しい影響を及ぼさないこと
	水質	化学的酸素要求量 (COD)、 全窒素 (T-N)、全リン (T-P)	水質拡散モデルによる定量的予測評価	
	底質	底質	調査結果等を踏まえた定性的予測評価	
土壤環境	重要な地形及び地質	流況予測結果等を踏まえた定性的予測評価		
生物環境	生物、生態系	水質予測結果等を踏まえた定性的予測評価		
景観	主要な景観資源及び眺望点	港湾計画内容を踏まえた定性的予測		
人と自然との 触れ合い	人と自然との触れ合い活動の場	調査結果等を踏まえた定性的予測評価		
その他	漁業、文化財	水質予測結果等を踏まえた定性的予測評価		

大気質、騒音、振動への影響の予測と評価

【大気質】

○今回計画と既定計画の窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、浮遊粒子状物質(SPM)の排出量を比較した場合、**いずれの項目も今回計画の排出量が小さくなる**。(NOx:-2.3t/年、SOx:-2.5t/年、SPM:-0.8t/年)
 → 今回計画に伴う大気質への影響は軽微

【騒音】

○今回計画における騒音レベルは、一部の時間帯・地点で環境基準を満足できないが、**全ての時間帯・地点において要請限度を下回る**

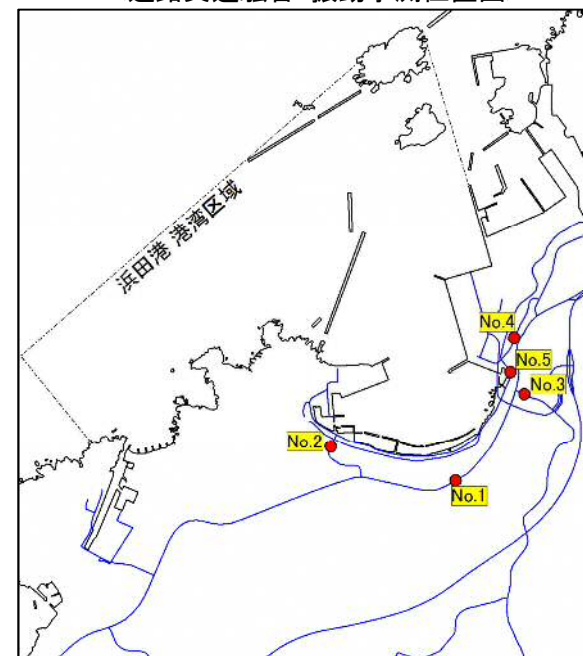
○No.1～No.4について、今回計画と既定計画を比較した場合、**全ての時間帯・地点において今回計画の騒音レベルが小さくなる**

→ 今回計画に伴う道路交通騒音の影響は軽微（騒音レベルが環境基準を超える地点については、物流の効率化を図ることにより、騒音源である通行車両台数の低減に努める）

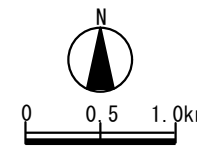
＜道路交通騒音予測結果 [dB]＞

予測地点	時間区分	騒音レベル		増加分 B-A	環境基準	要請限度
		既定計画 A	今回計画 B			
No.1	昼間	72.4	72.1	-0.3	70	75
	夜間	66.7	66.4	-0.3	65	70
No.2	昼間	62.9	59.6	-3.3	70	75
	夜間	53.2	49.8	-3.4	65	70
No.3	昼間	67.9	65.0	-2.9	70	75
	夜間	58.1	55.0	-3.1	65	70
No.4	昼間	66.1	65.6	-0.5	65	75
	夜間	56.5	55.9	-0.6	60	70
No.5	昼間	—	65.1	—	70	75
	夜間	—	56.3	—	65	70

＜道路交通騒音・振動予測位置図＞



- No.1: 一般国道9号
- No.2: (県)浜田商港線
- No.3: (主)浜田美都線
- No.4: 臨港道路福井1号線
- No.5: (県)浜田商港線



注)No.5は今回計画において新たに予測地点に選定

【振動】

○今回計画における振動レベルは、**全ての時間帯・地点において要請限度を下回る**

○No.1～No.4について、今回計画と既定計画を比較した場合、**全ての時間帯・地点において今回計画の振動レベルが小さくなる**

→ 今回計画に伴う道路交通振動の影響は軽微

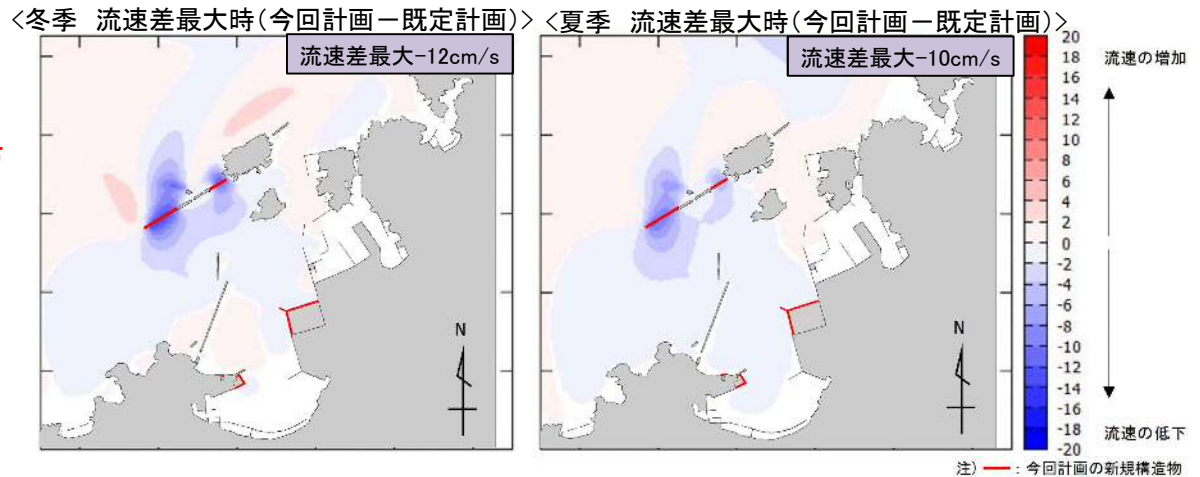
＜道路交通振動予測結果 [dB]＞

予測地点	時間区分	振動レベル		増加分 B-A	要請限度
		既定計画 A	今回計画 B		
No.1	昼間	46.7	46.4	-0.3	70
	夜間	44.3	44.1	-0.2	65
No.2	昼間	41.7	32.4	-9.3	65
	夜間	33.0	29.6	-3.4	60
No.3	昼間	22.1	16.8	-5.3	65
	夜間	19.3	16.4	-2.9	60
No.4	昼間	27.3	26.1	-1.2	70
	夜間	28.0	26.9	-1.1	65
No.5	昼間	—	27.7	—	70
	夜間	—	27.1	—	65

潮流、水質への影響の予測と評価

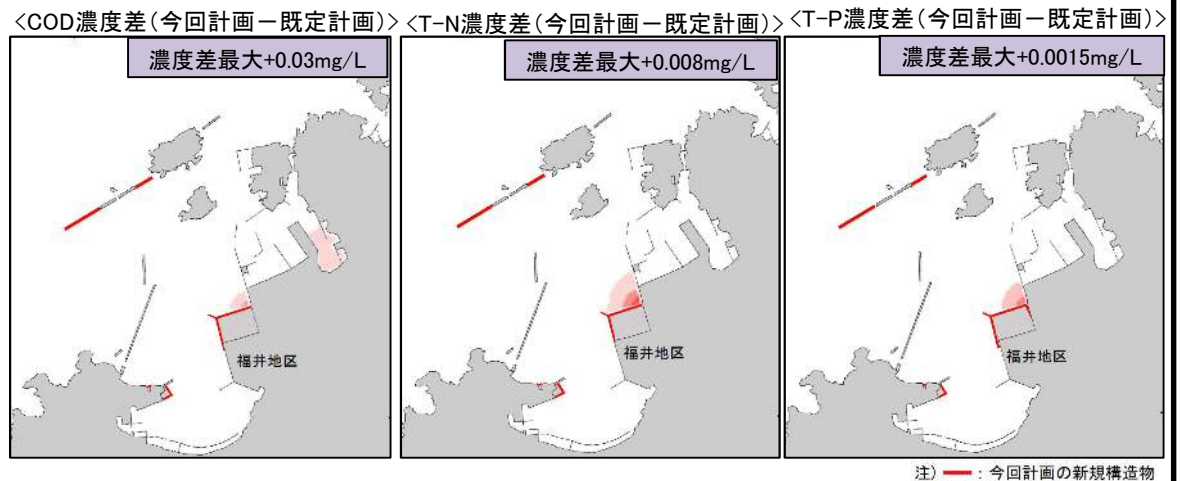
【潮流】

- 今回計画により、北防波堤周辺において、主に流速低下域(冬季に最大-12cm/s程度、夏季に最大-10cm/s程度)が形成されるが、その範囲は北防波堤延伸部近傍に限られる
- 今回計画が海域の流況に及ぼす影響は軽微



【水質】

- 今回計画により、埋立計画地周辺において濃度変化域が生じるが、濃度変化は、CODが最大+0.03mg/L程度、T-Nが最大+0.008mg/L程度、T-Pが最大+0.0015mg/L程度と小さく、その範囲は埋立計画地の近傍に限られる
- 今回計画が水質に及ぼす影響は軽微



底質、地形及び地質、生物、生態系、景観、人と自然との触れ合い活動の場、漁業、文化財への影響の予測と評価

【底質】

- 今回計画では、底質を悪化させるような施設の計画はない
- 潮流、水質への影響は軽微
→ 今回計画に伴う底質への影響は軽微

【地形及び地質】

- 今回計画では、重要な地形及び地質を直接改変しない
- 潮流への影響は軽微
→ 今回計画に伴う地形及び地質への影響は軽微

【生物】

- 海生動物は、貴重種(軟体動物2種)の生息区域の一部が消失するが、周辺には本種の生息環境が広く残存する
- 海生植物は、ワカメ、エンドウモク、クロメの生育区域の一部が消失するが、埋立区域のほとんどは漁業権除外区域で、これらの種は埋立計画地以外の浅海域でも広く分布する
- 陸生動物・陸生植物の生息・生育域を直接改変しない。
また、鳥類の採餌場を大きく改変しない
- 大気質、騒音、振動、潮流、水質等への影響は軽微
→ 今回計画に伴う動植物への影響は軽微

【生態系】

- 上位性のハヤブサ等は、餌となる生物の生息域が減少するが、周辺には同様の環境が広く存在する
- 典型性のイソヒヨドリ、コノシロ等は、餌場や生息域が減少するが、周辺には同様の環境が広く存在する
- アマモは、生育域を直接改変しない
- 大気質、騒音、振動、潮流、水質等への影響は軽微
→ 今回計画に伴う生態系への影響は軽微

【景観】

- 今回計画では、景観資源及び眺望点を直接改変しない
→ 今回計画に伴う景観への影響は軽微

【人と自然との触れ合い活動の場】

- 今回計画では、海域の一部が消失・改変するが、地形及び地質、生物、生態系への影響は軽微
→ 今回計画に伴う人と自然との触れ合い活動の場への影響は軽微

【漁業・文化財】

- 今回計画で消失・改変する区域のほとんどは漁業権除外区域であり、その周辺は現況で既に港湾活動に利用
- 海生動物、海生植物への影響は軽微
- 今回計画では、文化財を直接改変しない
→ 今回計画に伴う漁業・文化財への影響は軽微

総合評価

- 以上により、今回計画が浜田港周辺の環境に与える影響は軽微であると評価
- 今回計画の実施にあたっては、環境保全について適切に配慮するとともに、工法・工期等について十分検討し、十分な監視体制のもとに、環境に与える影響を少なくするよう慎重に実施する

8. 浜田港トピックス

トピックス(1)

浜田港マラソン 3月18日 200チーム募集

- ・2017年3月18日、浜田漁港周辺をチームで走る「山陰浜田港マリン大橋リレーマラソン」が開かれる
- ・2016年2月、初めて開いた大会には県外を含む145チーム、1,124人が参加、発着点のしまねお魚センター前には飲食の屋台が並び、多くの人でにぎわった
- ・2回目となる今回は、企業対抗、男女混合、シニア、仮装などの8部門で計200チームを募集

H28.11.8中国新聞掲載

浜田・三隅道路全通 物流や代替道効果に期待

- ・平成28年12月18日、山陰自動車道 浜田・三隅道路の西村IC～石見三隅IC間(6.4km)が開通し、全長14.5kmで無料区間の浜田・三隅道路が全通
- ・事業者や地域住民たちは、物流効率の向上や緊急搬送の迅速化、国道9号の代替道路としての役割などに期待
- ・全通により、中国横断自動車道広島浜田線(浜田自動車道)を經由して広島市と浜田市三隅町が直結、これに伴い広島方面への情報発信を強化し県外客の増加を図る
- ・山口県との県境区間も含めた県内の山陰自動車道の早期全線開通を望む声も上がっている

H28.12.19山陰中央新報掲載

浜田港 2018年12月 ガントリークレーン利用開始

- ・浜田港に導入を計画しているガントリークレーンは、2018年12月から利用を開始する
- ・軌道上を移動するガントリークレーン(51トンつり)は、大型のコンテナ船に対応でき、現行の多目的クレーン(36.5トンつり)に比べ、荷役作業スピードが2倍になる
- ・基礎地盤が軟弱で、岸壁の改良なども必要であることが判明、調査・計画設計に9ヶ月を要する

H29.1.12中国新聞掲載

トピックス(2)

浜田港－釜山航路 2016年度コンテナ17.6%増 輸入過去最多

- ・浜田港と韓国・釜山港を結ぶ定期コンテナ航路の2016年度の貨物取扱量(20フィートコンテナ換算)は前年度比17.6%増の2,918本となり、2001年の航路開設以来の最多だった2014年度(3,414本)に次ぐ過去2番目
- ・輸出は19.6%増の970本、主な品目は住宅内装材に使う韓国向けヒノキ丸太等の木材、ベトナム等へのパルプ・古紙等
- ・輸入は16.6%増の1,948本で過去最多、主な品目はビニール袋の原材料となるタイ、韓国からのポリエチレン、中国や韓国からの自動車部品用の無機化合物、中国等からの化学薬品等

H29.4.5山陰中央新報掲載

浜田漁港 2016年漁獲高20%増57.6億円 過去5年最高 巻き網、底引き網好調

- ・2016年の浜田漁港(浜田市)の漁獲高が前年比20%増の57億6,363万円となり、過去5年間で最高、巻き網、沖合底引き網漁ともに好調に推移し、水揚げ量も10.7%増の1万8,763トン
- ・島根県西部沖の海水温上昇でプランクトンが増殖による、魚の個体数の増加や大型化が要因とみられる
- ・アジやサバを主体にした巻き網漁は、水揚げ量が17.9%増の1万3,488トン、漁獲高が67.2%増の22億8,977万円、このうちブランド魚「どんちっちアジ」は水揚げ量が前年の4.7倍の1,399トン、漁獲高は同13.1倍の4億1,646万円
- ・ボグロやカレイ等の沖合底引き網漁の水揚げ量は3.0%増の3,550トン、漁獲高は10.2%増の20億2,680万円
- ・国や県、市が補助する漁船改修事業で、各船が冷却海水で鮮度を保つ設備等を導入し、魚価が向上したのも好影響

H29.4.16山陰中央新報掲載

トピックス(3)

浜田で民間風力発電計画 広島県境に最大17基 2023年4月稼働目指す

- ・発電事業のグリーンパワーインベストメント(東京都)が、浜田市金城町と広島県北広島町の県境付近に最大17基(総出力5万8千キロワット)の風力発電施設を計画、2023年4月の稼働を目指し、完成すれば島根県内では出雲市の「新出雲風力発電所」(総出力7万8千キロワット、28基)に次ぐ規模
- ・発電施設は浜田市金城町波佐の鷹ノ巣山と大佐山周辺に立地、総事業費約190億円、高さ94m、1基3,400キロワットの風車を最大17基建設する
- ・同社は浜田市と北広島町で環境影響評価配慮書を公開、今後住民の意見をまとめた上で基本設計や用地交渉に入り、2012年4月の着工を目指す
- ・同社は、子会社が浜田市金城、弥栄両町にまたがる敷地約6.5ヘクタールに風車29基(4万8,430キロワット)を設置したウィンドファーム浜田を2016年6月から稼働させている

H29.5.23山陰中央新報掲載

浜田港初の外国クルーズ船

- ・2018年度、浜田港に初めて外国籍の大型クルーズ客船「コスタ・ネオロマンチカ号」(5万7千トン、船長220.6m、乗客定員1,800人)が寄港する見通し、境港には4月に初めて入港しており、10月11日までに計24回の寄港を予定している
- ・浜田港は現在5万トン級のクルーズ船の入港が可能、ただし16万トン級の受け入れ可能な境港に比べて受け入れ機能が弱く、国が1億円をかけて福井地区の岸壁で接舷時の衝撃をやわらげる工事を実施、9月に完了する見込みで7万トン級の寄港が可能になる
- ・今後は、定期的な外国籍クルーズ客船の入港、寄港回数の増加に向け、県や関係自治体等による地元の魅力を生かした受け入れ態勢の整備が課題となる

H29.6.28山陰中央新報掲載

トピックス(4)

豪華客船「飛鳥Ⅱ」寄港

- ・国内最大級の客船「飛鳥Ⅱ」(50,142トン)が29日浜田港に寄港
- ・岸壁では、官民でつくる浜田港振興会が中止となって、コーヒーの提供や石見神楽で乗船客や船員へのおもてなしを実施、外国籍の船員に向けて初めて公衆無線LANサービス「Wi-Fi」を整備
- ・「飛鳥Ⅱ」は「日本一周グランドクルーズ」で3年ぶりの寄港、乗船客約470人の大半は日本人、観光バス8台に分乗し、石見銀山遺跡(大田市)や津和野町を観光
- ・浜田港への客船寄港は、2016年は1隻のみと低調だったが、2017年は9月までに2隻、2018年は現時点で外国客船3隻の寄港が予定されている

H29.6.30山陰中央新報掲載

浜田港－釜山港間 大型定期コンテナ船就航 積載量2倍に

- ・浜田港と韓国・釜山港を結ぶ定期コンテナ船が大型化する
- ・積載能力は現行の約2倍、波の影響を受けにくくなるため安定運航につながるほか、コンテナの積み残しが減る等、荷主の利便性向上が期待される
- ・運航する韓国の船会社「南星海運」は、運搬能力の拡大に向け、コンテナを342本(20フィート換算)積載できる現行の船舶を、今年中に700本対応に切り替える計画を示していたが、接岸する福井4号岸壁の水深を掘り下げる工事が終わるなど受け入れ環境が整ったため入港を決めた
- ・新たなコンテナ船は全長約128m、総トン数は約7,400トン、釜山港から4国3港を經由後、浜田港に入り、釜山港に戻るルートで週1回運航する
- ・「南星海運」は、積み降ろし作業の迅速化につながる荷役機械の導入等、条件が整えば、山陰両県の港湾で最大クラスとなる1千本を積み込める船舶の投入も検討している

H29.7.20山陰中央新報掲載

トピックス(5)

浜田港に大型コンテナ船就航

- ・浜田港と韓国・釜山港を結ぶ大型定期コンテナ船が21日、浜田港福井埠頭に就航し、記念セレモニーが催された
- ・就航したのは、韓国の船会社「南星海運」が運航する「Liberty Star(リバティスター)」(全長128m、7,400トン)、従来のコンテナ船の約2倍に当たる最大700本のコンテナを積載でき、速度も2ノット速い最大15ノットで運ぶことができる
- ・同船は週1回、釜山港から四国の3港を経由して浜田港に入り、釜山港に戻るルートで運航する

H29.7.22山陰中央新報掲載

国道9号交通量の6割 浜田三隅道路に転換

- ・国土交通省浜田河川国道事務所は、山陰自動車道浜田・三隅道路の西村IC－石見三隅IC間6.4キロの開通後、並行する国道9号の交通量のうち約6割が同自動車道の利用に転換した、との調査結果を発表した
- ・同区間は昨年12月18日に開通、今年7月11日に行った調査によると、24時間交通量は約6,700台で、同区間と並行する国道9号は約1,500台だった
- ・また、死亡事故が減少、同自動車道原井IC－西村IC間8.1キロの開通前の2014年1～6月には国道9号で14件あったが、西村IC－石見三隅IC間をあわせた浜田・三隅道路全線(14.5キロ)開通後の今年1月～6月は、国道9号と合わせて4割減の8件にとどまった

H29.8.18山陰中央新報掲載

トピックス(6)

日本光研工業が江津進出

- ・自動車塗装などに使うパール顔料を製造する日本光研工業(東京都立川市、松田信夫社長)が、江津地域拠点工業団地(江津市松川町)への工場進出を決め、島根県、江津市と覚書を交わした
- ・同社は1955年設立の日本初の専門メーカーで、2017年3月期の売上高は約30億円
- ・国内外でのパール顔料の需要増を受け、生産体制を拡充するため、地震リスクが低く、工業用水も豊富な江津市を選定、2019年1月の操業を目指す、創業後3年間で20人を新規雇用する
- ・約10億円を投じて鉄筋3階建て(延べ床面積3,200㎡)の工場を新設、新工場操業に伴い同社全体の生産能力は2倍となる
- ・県は2億2,600万円を助成するほか、江津市は固定資産税3年分を減免し、約5千万円をかけて工場につながる市道も整備する

H29.9.1山陰中央新報掲載

